

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

新発田市教育委員会

1 平均正答率

	小 学 校		中 学 校			
	国語	算数	国語	数学	英語	英語 話すこと
新 発 田 市	70	67	74	60	54	－
新 潟 県	68	66	74	60	55	－
全 国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0	30.8
県平均との差	2	1	0	0	-1	－
全国平均との差	6.2	0.4	1.2	0.2	-2	－

※ 英語の調査結果は領域の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」と「話すこと」の 2 つに分けて調査結果を公表している。「話すこと」の調査結果は、参考値として全国の調査結果は公表されているが、市、県の全体の正答率は公表されていない

(1) 小・中学校の特徴

【小学校】 国語、算数の平均正答率は、県、国と同等或いは、数ポイント上回っている。特に国語は全国平均+6.2 ポイントととても高い結果である。国語、算数共に全国平均を上回る結果が継続している。

【中学校】 国語、数学において、新発田市の平均正答率は県平均と同等或いは、全国平均を上回っている。国語、数学共に全国平均を上回る結果が継続している。一方英語は、県平均-1 ポイント、全国平均-2 ポイントであった。

(2) 成果と課題

小・中共に国語、算数、数学で全国平均と同等または、上回っているのは、各校が NRT 標準学力調査や Web 配信集計システム等を活用した自校の学力実態の分析を基に、児童生徒に問いをもたせる学習課題の設定や学習のまとめや振り返りを大切にした授業改善に取り組んできた成果である。

令和 2 年度から小学校で外国語科が開始されることも踏まえ、英語の授業改善を進めていく必要がある。

(3) 校種別平均正答率

- ① 小学校では国語、算数の平均正答率の合計で、約 7 割の学校が全国平均以上または、同等であった。全国平均以上または、同等の学校数は昨年度と同程度である。
- ② 中学校では国語、数学、英語の平均正答率の合計で、5 割の学校が全国平均以上または同等であった。英語で全国平均を下回った学校が複数校あったことが 5 割になった原因の一つである。

2 各設問に見られる傾向（学力調査から）

(1) 全国平均と同等又は、上回った設問数

	小 学 校		中 学 校		
	国語	算数	国語	数学	英語
総 設 問 数	14	14	10	16	21
全国平均と同等又は上回った設問数	13	9	8	10	10

(2) 小学校の結果と考察

【国語の結果と考察】

- ① 国語は、全国平均を大きく下回る(－5ポイント以下)設問は1問のみで、昨年度に引き続き全般的に学習内容が定着していると言える。
- ② 国語で全国平均を大きく下回る設問は、「文中の表記を漢字を使って書き直す問題(かんしん→関心)」で、-5.1ポイント(全国正答率 53.6% 市正答率 30.5%)であった。感心と解答した誤答が多い。全国平均は超えているが正答率が60%を下回った問題は、前述①の他に、2問であった。「調査結果(1)と(2)で分かったことをまとめて書く。」記述式の問題(全国正答率 28.8% 市正答率 34.5%)と「文中の表記を漢字を使って書き直す(たいしょう→対象)」問題(全国正答率 41.9% 市正答率 56%)である。

- ① 国語は、記述式問題3問中2問は、8割程度の正答率であり記述の力が概ね定着しているといえる。しかし、記述の条件を満たして書くことに課題がある。書く指導の際に具体的に相手、書く目的を設定し、文字数、根拠を示すなどの条件に合わせて書かせる、学習のまとめや振り返りを書かせる場面でも、根拠と理由を入れて書かせるなど指導を工夫する必要がある。
 - ② 漢字の「知識」「活用」を問う問題に課題が見られた。同音異義語のような使い方が紛らわしい漢字について、国語の授業だけでなく漢字で表記する学習機会を捉えて、意図的に活用させる場面を設けることが必要である。

【算数の結果と考察】

- ① 算数は、昨年度と同様に全国平均を大きく下回る問題はなく、全般的に学習内容の定着が図られている。
- ② 算数で、正答率60%を下回った問題は、6問である。その内、正答率50%を下回った3問(計算式が表していることを説明したり、記号で選んだりする問題)を取り上げる。「示された図形の面積を求める計算式から、どのように求めているかを説明する」問題(全国正答率 43.9% 市正答率 47.5%)、「減法の計算の仕方のまとめを参考にして、除法の計算の仕方についてまとめる」問題(全国正答率 31.1% 市正答率 32.3%)、「除法の計算が何m分の代金を求めているかを選ぶ」問題(全国正答率 47.0% 市正答率 48.3%)である。

- ① 示された図形の面積を2つ以上の式を使って求める問題で、それぞれの計算が何を求めているかを説明する問題に授業で取り組む必要がある。無答率が市平均 3.5ポイントとやや高いことから、1つ目の式「 $5 \times 4 = 20$ 」の「5」を示された図形から探させるような活動の工夫が必要である。
 - ② 減法の計算の性質のまとめを参考にして、除法の計算の性質をまとめる問題で、無答率が市平均 6.1ポイントと最も高かった。減法の性質を使った計算問題の正答率が81.0%であったことから、「減法の計算の性質」は理解できているが、「算数用語を使って論理的に表現すること」を苦手に行っている実態がある。どの単元においても、算数用語を使って根拠を基に筋道を立てて表現させる授業改善が必要である。
 - ③ 除法の計算の性質を使った除法の式の意味を理解できていない実態がある。除法に限らず、式が何を求めているかを1つ1つ丁寧に確認しながら進める授業が求められている。

(3) 中学校の結果と考察

【国語の結果と考察】

- ① 国語は、全国平均を大きく下回る問題はなく、昨年度に引き続き学習内容が定着していると言える。
- ② 正答率 60%を下回った問題は、3 問である。「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている弁当の魅力として適切なものを全て選択する問題（全国正答率 61.5% 市正答率 59.9%）、投稿を封筒で郵送するために封筒の書き方に従って名前と住所を書く問題（全国正答率 56.8% 市正答率 59.4%）「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く問題（全国正答率 60.4% 市正答率 59.7%）で、無答率も市平均 8.5%と高い。

- ① 読む力では、長文を短時間で読み、文章の展開に即して情報を整理して内容を捉えることに課題が見られる。キーワードに線を引きながら読む、文章構成を図で表す、事実や事例と意見を区別して読む等の指導を工夫する。
- ② 封筒の書き方については、無答率も市平均 4.7%であることを踏まえ、国語科の学習に限らず総合的な学習の時間や特別活動等とも関連させ、活用場面を増やす。
- ③ 記述式の問題では、無答率が高い。条件を踏まえて書くことに対する難しさに加え、書くことへの苦手意識が原因にあると考えられる。書き方の例にしたがって書き方を理解する。書き方の例に沿って書く、書き方のパターンを増やすなど段階的な学習で、書くことができた達成感をもたせることを大切にして、条件に合わせて書く指導を段階的に積み重ねていくことが大切である。

【数学の結果と考察】

- ① 数学は、全国平均を大きく下回る問題はなく、昨年度（2 問）より改善が図られた。
- ② 数学で、正答率 60%を下回った問題は、7 問である。その内、4 領域で唯一全国平均を下回った「関数領域」の 3 問を取り上げる。「表から反比例の式を求める」基本問題（全国正答率 48.9% 市正答率 44.7%）、3 種類の冷蔵庫の本体価格と年間の電気代をまとめた表を基にした 1 つ目の問題「グラフの 2 点間の差が表すものを選択する」（全国正答率 38.8% 市正答率 34.7%）、2 つ目の問題「2 種類の冷蔵庫の総費用が等しくなる使用年数の求め方を説明する問題」（全国正答率 34.7% 市正答率 37.1%）である。

- ① 「表から反比例の式を求める」問題では、次のような生徒のつまずきポイントについて各校が分析する必要がある。反比例の式を分かっているか、反比例の式に表の数値を代入することが分かっているか、代入した後の計算ミスはないか、解答欄に比例定数を書いているかなどである。無答率が市平均 10.9%と高いことから、「まず、何をすればよいか」考える手順を身に付けさせる必要がある。
- ② 日常生活と関連付けたグラフについて、何を表しているかを表現する授業が行われるようになっている。今回の「グラフの 2 点間の差が表すもの」のように、発問を工夫する必要がある。
- ③ 日常生活と関連付けた問題で、2 つの関数式を使って計算で求める学習や交点の座標を読み取る学習はしている。求め方を説明させる授業改善に取り組む必要がある。

【英語の結果と考察】

- ① 全体の平均正答率は、全国正答率 56%に対して市正答率 54%で、－2 ポイントの差があった。領域別に全国との正答率を比較すると、聞くことと読むことについては、市正答率は－0.4～－1.8 ポイントである。これに対して、書くことは、－4.1 ポイントと差が大きい。
- ② 問題形式別（選択式、短答式、記述式）の比較では、短答式回答で全国正答率と比べて－4.7 ポイントで差が大きい。
- ③ 設問別に比較すると、全国正答率を大きく下回る問題が 4 問。正答率が 60%を下回る問題は 9 問であり、全国も同じ 9 問が下回っている。そのなかでも特に落ち込みの大きい設問が、「与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」（全国正答率 32.9% 市正答率 22.1%）。他にも「会話が成り立つように必要な語句を使い文章を完成させる」問題（全国正答率 28.9% 市正答率 21.7%）など、書くことに関する知識理解を伴う問題で落ち込んでいる。また、時制を考えて状況にあわせた会話文をつくるなど、学んだことがらを使って情報を発信するような難易度の高い問題の正答率は極端に低く、無答の割合も高い。

④ 質問紙から

書くこと・読むことに関する生徒質問紙では、「1・2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（読んで）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」に対して、新発田市の肯定的評価がそれぞれ 84.9%（85.3%）である。また、書くことに関する生徒質問紙では、「1・2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか」に対して、新発田市の肯定的評価が 84.5%で、いずれも全国の回答を上回っている。また、「英語の勉強が好きですか」（全国回答 56.0% 市回答 59.5%）や「英語の授業はよく分かりますか」（全国回答 66.0% 市回答 70.0%）の肯定的評価も全国を上回っている。

- ① 英語に関する興味や関心、わかりやすさについての肯定的評価は全国を超えてはいるが、数学や国語と比べ低い。まずは、より分かりやすい授業を行い英語の学習が好きになるように、英語嫌いを少なくする工夫が必要である。同時に、文法にしたがって正確に書く、正確に聞き取るなど、基本的な知識、理解を身に付けさせるバランスのとれた指導が必要である。
 - ② コミュニケーション活動が学習に占める割合が大きい教科である。単に英語を聞いたり、読んだりする力は付いてきていると捉えるが、話したり書いたりする力に課題がある。特に、聞いたことを基にして書く、読んだことを基にして書くなどの技能統合の問題は無答率が非常に高く正答率も低い。技能を統合して書くといった高度な問題への対応には、以下の点を意識した指導の充実が望まれる。
- ア 実際のコミュニケーションの場を想定し、得た情報を基に自分の感想や考え等を相手に返す学習を工夫していく。
- イ 実際に英作文をつくる際には、1つの単語に固執せず、言い換えることができる力や柔軟な発想力をつけさせる指導も必要である。
- ウ 書く内容をもたせるためには、国語や社会等の他教科と関連した幅広い知識が必要であり、他教科での学習内容、学校行事や地域活動等様々な教育場面における教科横断的な指導を推進することが重要である。

(4) 新発田市学校教育の指針と関係する学習状況調査の結果について

児童生徒質問紙項目 (一部抜粋)			新発田市	新潟県	全国
自己肯定感等	自分には良いところがあると思うか。(肯定的評価)	小	86.0	84.1	81.2
		中	80.0	76.7	74.1
	将来の夢や目標を持っていますか。(肯定的評価)	小	85.3	83.5	83.8
		中	74.7	70.1	70.5
分かる、 できる、 楽しい授業	学校に行くのは楽しいと思いますか。(肯定的評価)	小	88.4	87.7	85.8
		中	84.5	84.0	81.9
	国語の勉強は好きですか。(肯定的評価)	小	70.6	69.4	64.2
		中	62.1	63.7	61.7
	国語の授業の内容はよく分かりますか。(肯定的評価)	小	90.4	90.5	84.9
		中	79.0	82.0	77.6
	算数(数学)の勉強は好きですか。(肯定的評価)	小	71.7	67.4	68.6
		中	65.8	59.2	57.9
	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか。(肯定的評価)	小	86.3	85.4	83.5
		中	81.7	78.0	73.9
	英語の勉強は好きですか。(肯定的評価)	中	59.5	55.5	56.0
		中	70.0	68.2	66.0
道徳科	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。(肯定的評価)	小	88.8	88.0	80.9
		中	86.2	85.1	76.6
主体的・対話的で深い学び	5年生(1、2年生)の時に受けた授業では課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。(肯定的評価)	小	84.2	83.4	77.7
		中	83.2	82.4	74.8
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(肯定的評価)	小	81.5	80.4	74.1
		中	80.2	79.4	72.8
	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。(肯定的評価)	小	86.5	86.9	82.8
		中	80.0	79.4	72.8
家庭学習	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(肯定的評価)	小	82.9	80.0	71.5
		中	58.3	53.7	50.4
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらい勉強していますか。(1時間より少ない～全くしない)	小	24.1	28.3	34.0
		中	31.0	36.1	30.0
いじめ	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(肯定的評価)	小	98.1	98.2	97.0
		中	96.1	96.6	95.1
地域とのつながり	今住んでいる地域の行事に参加していますか。(肯定的評価)	小	81.5	84.1	68.0
		中	52.4	59.8	50.6
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。(肯定的評価)	小	63.7	62.0	54.5
		中	44.3	46.5	39.4
部活動	学校の部活に参加していますか。(運動部のみ、文化部のみに参加)	中	91.1	90.1	86.6
	普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間部活をしていますか。(2時間以上)	中	64.4	49.2	53.0

① 自己肯定感等について

小中共に自己肯定感や将来への夢や目標を抱いている割合が全国、県と比べて高い。正答率との関連では、教科にかかわらず自己肯定感の高い児童生徒の正答率が高い。将来の夢や目標を持っていることについては、小・中学校共に正答率との関連はあまり見られない。将来の夢や目標はもっているものの、その達成に向けてどうすべきかキャリア教育の視点からの指導が大切である。

② 分かる、できる、楽しい授業について

調査したいずれの教科においても、肯定的な評価が全国、県を超えている。各学校で「分かる、できる、楽しい授業」「楽しい学校づくり」に向けた取組が着実に進められていることが分かる。正答率との相関では、国語（各教科）が好き、よく分かると答えている児童生徒ほど正答率が高い。英語の授業が好き、よく分かると答えている生徒は、国語、数学の正答率も高くなっている。学習意欲を高め、分かりやすい授業を今後も推進することが大切である。

③ 道徳科について

道徳科が全面実施となった。小・中共に「考え、議論する道徳」の実践に向けて取り組んでいることが分かる。

④ 主体的・対話的で深い学びについて

小・中共に主体的・対話的で深い学びについて着実に実践していることが分かる。正答率との相関では、調査したいずれの教科においても、これらの項目について肯定的な評価をしている正答率がそうでない評価と比べ高くなっている。新発田市はいずれの項目も全国より高いが、それが正答率に全て反映されているとは言えない。取組の質を高めていく必要がある。

⑤ 家庭学習について

家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒ほど、全ての教科で正答率が高い傾向がある。

平日の家庭学習の時間が1時間未満の児童生徒の割合は、昨年度と比較して小学校で+5.6ポイント、中学校で+4.0ポイントであった。平日に1時間以上の家庭学習に取り組む児童生徒の割合が、昨年度より減少している。また、小学校では「全くしない」と「1時間以上」と回答した児童の国語と数学の正答率の差は小さいが、中学校では正答率の差が大きく開く傾向がある。引き続き、自主学習を1時間以上できるように小・中で連携して指導していくことが重要である。

⑥ いじめについて

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考える児童生徒の割合は、全国平均より高い。CAPプログラムの実施や人権教育、同和教育、道徳教育の取組の成果である。この意識は、これらの指導を継続することで児童生徒の心に深く根付くものなので、引き続き指導の充実に努めていく必要がある。

⑦ 地域とのつながりについて

「地域とのつながり」を大切にしている児童生徒の割合は、全国平均より高いが、県平均よりは低い。中学校になると低下する傾向があるので、地域行事への参加を促す配慮や地域について考える機会を総合学習の時間等で取り組み、地域ボランティアへの参加につなげるなど、「地域とのつながり」を大切にする教育活動の工夫が必要である。

⑧ 部活動について

平日の1日当たりの活動時間が1～2時間の生徒の正答率が最も高い傾向にあり、2時間以上になると正答率が下がる傾向がある。適切な活動時間の部活動に参加することは、学習面にも良い影響があると分析することができる。